

寺報 善 巧

発行
〒938 富山県下新川郡
宇奈月町浦山497
白雪山 善 巧 寺
☎宇奈月 0765(65)0055

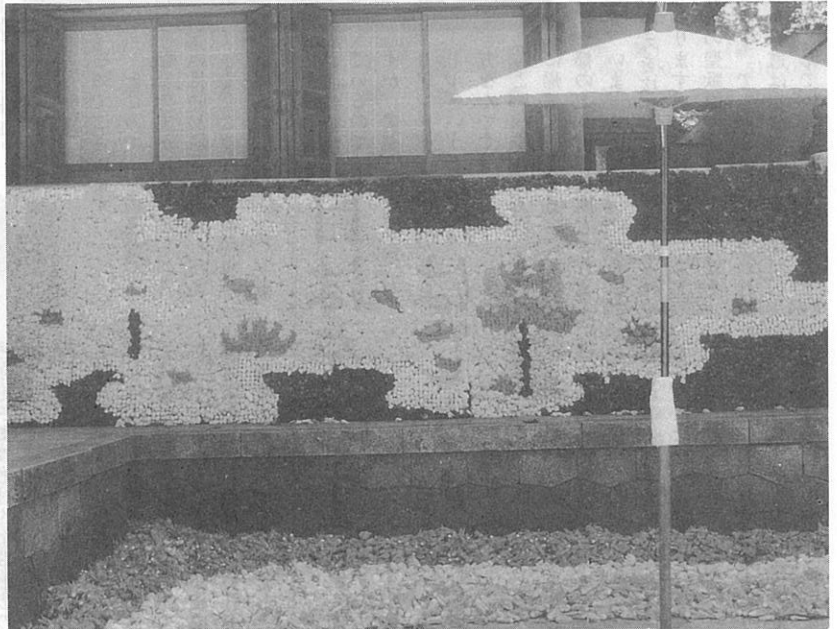
寺
こよみ

四
月

一日 お講・下村 御助成会
一六日 お講・栗虫
一七日 お寺の学校開校式
二九日 花の誕生会
今年で十二回目を迎える「花の誕生会」。仏さまは四月八日。親鸞さまは五月二十一日。そのちょうど真ん中あたりの四月二十九日(天皇誕生日)に新川地区のチューリップが満開!というわけで、十万个を超える花を飾って、世界一の花いっぱい誕生パーティーをやるうというのが、善巧寺の「花の誕生会」です。
仏さまや親鸞さまだけでなく、おじいさん、おばあさん、お父さん、お母さん、みんな生まれてよかったね、とよろこび合う日です。この日は、赤ちゃんがはじめてお寺へ参る「初参式」も行います。お孫さんや、近所の赤ちゃんにも是非「初参式」を受けられるようおすすめ下さい。

第 12 回 四月二十九日 午前十時より 慶びの春 花の誕生会

初参り、チューリップ、縁日
家族そろってお参り下さい。



北国では、春が来たというよりも、冬が去ったという方が当たっています。長い暗い冬が去って初めて春の光を浴びることが出来るのです。善巧寺では、先ず合掌型の雪掛け門が撤去されます。此のゲートは、数年前から本堂の落雪の危険防止のために作られたものですが、五十数枚の板を合掌形に組み合せて作られた頑丈な門で、三月に入ると時期を見て大葺建築の若いもの五、六名で、一枚一枚ホルトを外して片付けられます。次は、本堂の雪囲いの撤去です。野畑一雄さん、野畑松次さん、岡田実さんの三人が親譲りの御奉仕で、此の作業に従って下さいます。音沢到来の何百枚のかやで、本堂の三方が覆われていること、これが無かったら吹雪のたびに本堂内まで雪で真白になることは御存知でしょう。次に、木村造園の方々の手によって、羅漢樹、松、つつじ其の他の庭木の雪吊りが外されてサツパリした形となります。
薄暗かった本堂に、春の光が射し込むまでもこのような皆さんの御力添えがあるわけです。
「仏説無量寿経」の中に「光顔、巍巍」という言葉ではじまる「讃仏偈」があります。

春がきた

釈尊の御顔が此の日、特別に光り輝いている有様を述べたものです。「光明遍照 十方世界」
丁度春の光が、偏なく照るように、一切衆生に弥陀の光明が注がれるのです。しかも此の弥陀の光明は、慈悲の光りであって、闇の世界を暖かく照らして下さるのです。

善巧寺も春を迎えて、新しい活動が始まろうとしています。一段と輝やいて見える正面の御本尊の前に、お講のたびに集まられる門徒の皆様方のお顔も気のせいかな晴れやかに見えるし、人数も増えて来るように思われます。「お寺の学校」には、新しいメンバーも加わって、可愛い、両手を合せて礼拝する姿も見られます。白鶴会も、年々会員が増加してその活動も軌道に乗って参りました。

昭和六十六年には本山で頭如上人四百回忌が行われることになっておりますが、これとやらんで善巧寺でも開基五百年、前住前坊守五十回忌が動きます。寺報四月一日号の文章を書いている私の机にも早春の日差しが暖かくていらしています。皆様の暖かいお志を望みます。
昭和六十六年四月一日
白雪山 善 巧 寺
住職 雪山俊之
鎌倉聖人 敬和 京師の善本



自然法爾を味わう①

行信教教授

高田 慈昭 師



自然合成 自然快樂

親鸞聖人が、他力ということを深く味われまし
たお言葉の中に「自然法
爾」というのがございま
す。末灯鈔というお聖教
の中に出てくるのですが、
この言葉は仏教の深い意
味をあらわしているもの

なのでございます。
ところで、この夏のこと
なんですが、ベルギーの青
い目のお坊さんがおられま
して、この方はそのベルギ
ーのアントワープという町
の大学の先
生もなさつ
ているので
すが、アド
リアン・ペ
ールという
方なんです。

このペールさんは、仏教
に帰依し、浄土真宗に帰依
し、京都のこの本山で得度もされま
して、いま、ヨーロッパにお念仏
の教えを広めて下さっているの
であります。小さい時はキリスト
教会の聖歌隊のメンバーだったそ
うです。でもいまは、私の救われ
てゆく道はこれだと、心の底から
よろこんでいらっしゃるんです。

自はをのずからといふ 然はしからしむといふ

やっていたのであります。
この「自然法爾」という味わい
は、西欧人の考え方からはなか
か出てこないものなんです。そ
れを適度に押さえていらっしゃる
ところにたいへん感心させられま
した。

さて、この、自然法爾という言
葉であります。本来は仏教全般
の言葉でして、禪宗でも使いまし
て「自然の法は、つくる人がある
こともなく、つくらないこともな
い。法爾自然、生死自然、因果自
然……」などと申します。

さらに、
宗祖のお正
信偈の中に
も「自然即
時入必定」
とあります
ね。

それで、この自然という言葉
浄土真宗では、特に阿弥陀如来の
本願力の自然、願力自然と使うの
であります。
阿弥陀如来の本願力が、自然然
しむる、こちらには何一つ計らう
余地はない、如来の計らい一つに
よって、あるがままに抱かれて救
われてゆくのである、と味わうの
であります。

自然在身、自然得聞、自然音楽、
自然相和、自然合成、自然快樂、
自然飽足、自然化生、無為自然……
また、観無量寿経の中にも、
自然増進、自然在中、自然化成
などと六カ所、
そして阿弥陀経には
皆自然生念佛法念僧之心
と、一カ所ですが出てきます。

親鸞聖人が晩年に、京都の善本
院というお寺で、弟ぎみの尋常僧
都に、仏教で自然法爾ということ
をよくいわれるが、浄土真宗にも
自然法爾ということがあるぞ、と
いって、願力自然ということにつ
いてのご法話をなさったんですが、
これが、自然法爾章として、末灯
鈔にのこされているのでありま
す。

自然といふは、自はをのづから
といふ、行者のはからひにあらず、
然といふは、しからしむといふこ
とばなり。しからしむといふは行
者のはからひにあらず、如来のち
かひにてあるがゆへに法爾といふ。
法爾といふは、この如来の御ちか
ひなるがゆへにしからしむるを法
爾といふなり。法爾はこの御ちか
ひなりけるゆへに、をよそ行者の
はからひのなきをもて、この法の
徳のゆへにしからしむといふなり。
すべてひとのはじめてはからはざ
るなり。このゆへに義なきを義と
すとしるべしとなり。自然といふ
は、もとよりしからしむるといふ
ことばなり。弥陀佛の御ちかひの
もとより行者のはからひにあらず
して、南無阿弥陀仏とたのませたま
ひてむかへんと、はからはせたま
ひたるによりて、行者のよからん
とも、あしからんともおもはぬを、
自然とはまふすぞとききてさぶら
ふ……

自然在身 自然得聞 自然音楽 自然相和

になつておられるのであります。

ところで、この他力といひますと、人の力をあてにするというように間違つて使う人が多いんです。野球でもなんでも、

他力本願で優勝なんていう人がいます。困ったものです。優勝したのは他力でもなんでもない。実力なんです。ね。

仏教では他力とか自力というの、仏さまのおさとりに向かうときにいう言葉なんです。

人間生活の上で自力他力はいわぬいぬで、それを日常生活でこ

ういう仏教の尊い言葉を使つてしまふから、本当の心をみな忘れてしまふ。他力というのは人間の力ではないんです。仏さま

の力、阿弥陀如来の本願力なんです。凡夫が仏になるのに、如来の本願

力一つによつて救われてゆく。それはこちらが願う前に、仏さまの方から願われてある、大きな限りない慈悲の世界、それをあらわすのであります。

行者のはからいにあらず

ところで、ふつうはこの「自然」を「しぜん」と読みます。仏教では「じねん」といいます。「しぜん」というと何か科学的な感じがしますけど、「じねん」というと、何かこうあたたかい感じがしますね。

で、ここで少し、その「しぜん」と「じねん」の共通点をあげてみようと思ふんですが、まず第一に「しぜん」は人間の手を加へないことがあげられます。人工を借りないのであります。まあ、これが本来の姿というものでしょう。

それと同じように阿弥陀如来の本願も、南無阿弥陀仏のお名号を

もつて、われらを救いたもうがゆえにこの本願を信じて一声だにも念仏を申さば、必ず仏のおたすけにあずかるなり、これ法爾道理なるべし、と法然上人もおっしゃっています。これこそ、自ら然らしめたまふ真実のおみのりなのだといふわけです。行者のはからいにあらずということなんです。

第二に、しぜん、じねん、共に因果の秩序、法則があります。自然界には原因と結果の道理が貫かれてあります。花は咲くべくして咲き、散るべくして散つてゆくも

のです。ウリのつるにはナスビはならんということですね。

仏法というもののその通り。お

しやかさまがお出ましになって、因果の道理を見抜かれた。これはおしやかさまがお出ましになる前からちゃんとおつた法則です。

いま、阿弥陀如来のご本願もそうでありまして、私たちを救つて下さる、救いの因果と、救われる側の私たちの因果がございます。

如来の救いの因果とは、法蔵菩薩の願行が「因」となり、正覚の阿弥陀如来が光明と名号となつて私のもとに届いて下さる、これが「果」であります。

この如来の因果が、私に届いて私の信心の「因」と、往生成仏の「果」となつて下さるの

であります。如来さまのお救いというの、神祕の魔術ではなくて、厳然たる因果の道理によつて、間違ひなく、救いの法が仕上がり、その法によつて間違ひなく救われてゆく法が、私どもの上に届いておつて下さる。それがお念仏なんです。そこに人間のはからいを越えた、如来のはからいとしての真実の慈悲のはたらきが、いま、私

どもの一人一人の煩惱を照らして、その全体に南無阿弥陀仏の功德を注いで救つて下さる、そこに因果の道理が成立し、自ら、然しむのであります。

雪ん子劇団

雪ん子劇団

ビデオ児童劇 第3巻 カラー 30分
領価 5,000円 (送料共)

昨秋、北日本地域社会賞を受賞した、ことばの教室「雪ん子劇団」が、さわやか演技であなたに贈る!



原作・阪田寛夫、劇団四季上演の台本を子供版に脚色して贈る感動のミュージカル!

『桃次郎の冒険』

桃太郎の弟の桃次郎が鬼ヶ島でもらった宝物は何だったのか?

発売中
第一巻 「ことばあそびうた」
第二巻 子供民話劇「ちづる」

お求めは
〒938 富山県下新川郡宇奈月町浦山497
白雪山善巧寺内 雪ん子劇団

本願カルタ

法蔵菩薩の願いは四十八通りあります。その願いが成就して、菩薩から仏さまになられたのが、阿弥陀如来さまです。そのあみださまがいっしょやる国を極楽浄土といひます。あなたも、わたしも、先祖も、子や孫も、間違ひなく往かせていただける国なのです。

③ 六道輪回の罪消えて 2 不更悪趣の願	⑤ 一切の衆生もらさず救う 18 念仏往生の願	⑦ 離れよ自力のためよ他力 20 植諸徳本の願	⑨ 女人成仏念を押し 35 女人成仏の願
⑪ 弁才秀れ限りなし 29 30 得弁才智の願	⑬ ほがらかにやわらかに 33 触光柔軟の願	⑭ 称うれば諸仏ほめたまう 17 諸仏称揚の願	⑯ 地獄も餓鬼もなき世界 1 無三悪趣の願
⑰ 流転輪回の過去を知る 5 宿命通の願	⑲ 抜きいでる神足どこまでも 9 神足通の願	⑳ 音響 柔順 無生のさとり 48 得三法忍の願	㉑ わが利益つねに他へ 36 常修梵行の願
㉓ 宝の山にゆかしき香り 32 宝香合成の願	㉕ 善きものばかり悪人は無し 16 離譏嫌名の願	㉖ 蓮華の花咲く尊貴の館 43 生尊貴家の願	㉗ 即時に至る不退の位 47 得不退転の願
㉙ 名を聞けば正定不退 34 聞名得忍の願	㉛ 願うばかりで衣服も自在 38 衣服隨念の願	㉜ 楽に染まつて怠惰にならず 39 受樂無染の願	㉝ 無数の声聞限りなし 14 声聞無数の願
㉞ かならず浄土へいたらしむ 11 必至滅度の願	㉟ 強き力はたぐいなし 26 那羅延身の願		

く 功德をあてに すべからず 19 修諸功德の願	お 大いなる樹 四百万里 28 見道場樹の願	の のぞみの品は 思いのまま 24 供具如意の願	み いのち輝き きわもなし 13 寿命無量の願	う うるわしきこと はかりなし 27 所須嚴浄の願
こ 黄金の色に 輝く浄土 3 悉皆金色の願	ふ 佛説まことを 常に聞く 46 随意聞法の願	け 顔容端正 へだてなし 4 無有好醜の願	ま まどろめば 無量の供佛 42 住定供佛の願	や 病いなく 不具の者なし 41 諸根具足の願
き 聞いてござるぞ おやさまは 7 天耳通の願	さ 三十二相 身にそなえ 21 三十二相の願	あ 朝な夕なに 諸仏の供養 23 供養諸仏の願	て 天人ともに 仰ぎみる 37 人天致敬の願	え 永遠のいのち たまわる 15 眷属長寿の願
ふ 絵の様に 諸仏国も目の当たり 40 見諸仏土の願	し 知りつくす 衆生の心 8 他心通の願	み 見てござる いつでもどこでも 6 天眼通の願	め 目の前に 無量の諸仏 45 住定見佛の願	ゆ 踊躍歡喜 み名聞けば 44 具足徳本の願
ち・た・う・お・すーが極 楽浄土。ひ・あ・と・い・く はーが仏さま。他は浄土に生 まれた私にそなわる徳。	す 澄みわたること 鏡の如し 31 国土清浄の願	せ 説法自在に ときひろむ 25 説一切智の願	も 燃える煩惱 消し尽くす 10 漏尽通の願	ひ ひかりいたらぬ ところなし 12 光明無量の願

記念事業計画に鐘楼修復



持ち越されることになりました。
六十二年度事業報告及び決算
事業に関しては、寺の法要関係は例年通り。特筆すべきは青少年教化活動で、日曜学校を「こころの教室・お寺の学校」と改称。「ことばの教室・雪ん子劇団」とならんで積極的情操教育の場とし

善巧寺開基
500年
前住職 **50** 回忌
坊 守 1991年 秋

春の総代会 3月19日

善巧寺の春の総代会は三月十九日に開かれ、仏参のあと、住職の在職四〇年のあいさつ。つづいて六十二年度の事業報告と決算報告を承認。六十三年度の予算を左頁のように決めました。このあと、開基五〇〇年、前住職、前坊守五〇回忌法要の記念事業について話し合われましたが、鐘楼修復に関する問題で、しめ直し、移転、改装、新築等の幅広い意見が出され結論は

移転、修復、新装、結論持ち越す

て充実をはかったこと。
また、雪ん子劇団は十一月に北日本新聞地域社会賞を授賞するなど活躍、評価がめざましかったことなどがあげられました。決算については、雪がなかったおかげで、食堂の畳が新しくなったこと、大屋根にすべり止め瓦を入れて費用がかさみましたが、門徒会費を千円ていど値上げさせていた



太子会で鐘楼を視察する総代、建設関係者 (3月11日)

いたおかげで、予算内で納まったことなどが報告されました。
六十三年度予算
前年度決算をふまえて、三年後の法要のことも考慮して、ほぼ前年度なみの予算とし、教化、寺務、会議費だけを増額するに止めました。
開基五〇〇前住・坊守五〇回忌さて、この寺報一月号でお伝えしていましたが、三年後の法要の件ですが、とにかく法要の準備費として別会計を組み、昨秋からこの三月までの報恩講まわりで二千百の積み立て金を集めさせていた

だいており、この合計が百十万円。特別会計として定期に入れさせていただきました。三年間で三百万、当日の懇志を見越して、法要勤修の最低限の財源は確保される見込みです。

修の最 低限の 財源は 確保さ れる見 込みで す。とこ

結論持ち越す

べき、二度とない前住・坊守の五〇回忌と、開基五〇〇年の法要の、記念事業をいかにするかという事です。
① 門徒会館及び図書館の建設
② 寺の山の買いもと
③ 鐘楼、山門の改装
などなど、寺の将来を考えた案はいろいろあるわけですが、当面は、先に行われた太子会(三月十日)でも問題になりました。老朽化した鐘楼修復について考えてゆくことで意見は一致しました。
この問題は、ご存知のように、鐘楼の老朽に加えて、隣接車庫と

の関係で、豪雪の際の危険度が増しているため、なんとか徐夜の鐘の折にも安心して使えるようにならないかと、二年前からいろいろ専門家の意見も聞いて、検討を重ねてきたものです。

太子会のあとの専門家の大野和悦氏の報告によりますと――

- ① 移転してヌキをとり替える
- ② 移転して柱もと替える
- ③ 移転して鐘に合うよう新築の三点が考えられ、①は二百万②は四六〇万③六六〇万ほどの費用がかかることがわかりました。

この日の総代会では、この三点に加えて、さらに、移転もせず補強だけに止める。新築するならば寺の景観に見合った鐘楼に――との意見も出されました。また、財源についても、全門徒平均負担と、有志の懇志によるとの意見も出され、結局、大勢は門徒への負担をなくせとの声にまともり鐘楼問題は、具体案を出すに至らずとして、今秋まで、結論を持ち越すことになりました。

この件に関して、ご意見等がありましたら、近くの総代さんか、寺へお寄せ下さい。参考にさせていただきます。

ごねんきさま NHKで 近く放映

下新川一帯に伝わる浄土真宗の究極のご法事「ごねんきさま」が近く(四月七日)NHKで放送されることになりました。TVを通しての紹介は初めてですので、か



写真は3月20日の
谷川家ごねんき

りの話
題を呼び
そうです。
ご承知
のように
「ごねん
き」とは、
先祖の年
忌法要に
合わせて、
親鸞聖人
の「御遠
忌」をつ
とめるも

富山が持ち家率日本一とか貯金率日本一などといわれるのは、なにもぜいたくをするわけではなくて、こうしたご法要をりっぱにつとめるためのものであることは、いうまでもありません。

しかし、こうしたご法事は、真宗王国富山といえども、下新川が中心で、富山、高岡あたりではほとんど見ることができません。つまり「ごねんきさま」は、下新川

雪ん子 善意銀行県大会で熱演

二月二十八日、富山の教育文化センターで行われた。富山県の善意銀行の大会に、お寺の雪ん子劇団が特別出演しました。

この大会は、県内でこの一年間に小さな親切運動を推進した個人や団体九六五件八百人が出席、同銀行から、感謝状を贈呈される催しでしたが、雪ん子はその表彰式の前に出演させていただき、手話ミュージカル「うちのとうちゃん

が誇るべき、日本一の宗教儀礼というわけです。
三月二十六、二十七日の両日、大橋の大蔵良造さん宅の「ごねんき」が、たまたま、NHKの取材対象となったのですが、寺参りから、仏さまを迎え、喚鐘やお道具の

白鶴会 副会長に菊地れいさん

お寺の仏教婦人会「白鶴会」の総会が一月二十九日に開かれ、会長(坊守)は留任。副会長は、本波ひささんの辞意を受けて、新しく、菊地れいさんを選びました。このあと、六十二年度の事業報告と決算報告があり、六十三年度も「開法と奉仕と親ほく」を柱に、手をつな

御寄進

蓮如さま

栃屋の古田みつさんから、この二月「蓮如上人ご絵像」をご寄進いただきました。タテ二一五・七センチ、ヨコ八八センチの大幅で、現在本山で調整中で、お寺に届くのは七月ごろになる予定です。

古田さんの実家は熊野の岡田洋さん方。「日頃お寺に参らせてもらっていますが、心ばかりの父や母のことを思い、心ばかりの寄進をさせていただきます」とのこと。お寺では、内陣に奉懸するほかごねんきにもお出まし願うことにしています、有難うございました。

運び出し、自宅でおかざり、そしてにぎしくくり広げられたご法要のてんまつが、どのようであつたかは、見てのお楽しみ。
放送予定は、いまのところ四月七日の午前七時三十分ごろから、約五分というところだそうです。

「続々お茶の間説法」 近々発売!

ユニークな説法で楽しく読めるお寺の若院の「お茶の間説法」と「続々お茶の間説法」につづいて、「続々お茶の間説法」が、近日、発売されることになりました。
正統編は、共に黒部のメルシーの山谷書店で、赤川次郎、鈴木健二を抜いて、堂々三カ月ベストセラーをつづけました。今回の続々編もどうぞよろしく願います。

いであいさつ。
なお、総会のあとは恒例のおにぎやかな新年会。得意のカラオケや、浦山有志の寸劇や踊りなどにヤンヤのかっさい。今年はごえはんの「ガマの油」も飛び出して、いやまったく、楽しいかぎり。

「続々お茶の間説法」 近々発売!

ユニークな説法で楽しく読めるお寺の若院の「お茶の間説法」と「続々お茶の間説法」につづいて、「続々お茶の間説法」が、近日、発売されることになりました。

正統編は、共に黒部のメルシーの山谷書店で、赤川次郎、鈴木健二を抜いて、堂々三カ月ベストセラーをつづけました。今回の続々編もどうぞよろしく願います。

合 掌

「若ハ、おらよ、七十の手習いで、阿弥陀さまを読む練習しとるが。けどさあ、なかなか、上手に読めんがで、お講のときのおつとめにも、ついでいけんがよ」と、岩崎のおばあちゃん。

「そんで、はじめの方でわからんようになろう。そしたら、おらあ、赤色赤光、白色白光いうところへ先まわりして、待つとるが。あ、あの方でわからんようになつたらさあ、あの若一日若二日若三日というところで待つとることにしとるが」

あーそいがけー、あそこではあちゃん、待つとるがー、と合づち打ちながら、ポツと心に灯がともりました。

「そや、ばあちゃん、あのお経さまで待つとるの、生きた人だけやないわ。死んだじいちゃんも、そのまた親も、おらのじいちゃんもばあちゃんも門徒のあの人、みーんな待つてくれとるがいぜ、ありがたいこつちやねえ」

そういつたら、岩崎はあちゃんも「あー、そいがやったねー」と手を合わせられました。お講でまたご一緒にお経読みましょうね。

